



久留米絣をブランド化 伝統の技術で新しい製品づくり

設立 昭和46(1971)年
 資本金 1,200万円
 本社所在地 久留米市日吉町12-12
 代表取締役 野口 和彦
 従業員数 85名
 事業内容 久留米絣を使用した衣服、雑貨の製造卸・販売
 受賞歴等 平成27年経済産業省「ものづくり日本大賞」(経済産業大臣賞)

公式サイトはこちら!



「創意工夫」「発明発見」「共在共栄」で 業界全体の発展を目指す

「儀右工門」ブランドの立ち上げ
 久留米絣製品の製造・販売を手がけ、全国に14の直営店を展開する株式会社オカモト商店は、昭和25年に創業した久留米絣卸業から始まりました。久留米絣は、織物なので密度が高く、丈夫で長く着用できることが特長です。また、肌触りがよく、着ることに肌になじんで愛着が増す織物ですと話すのは、野口社長。

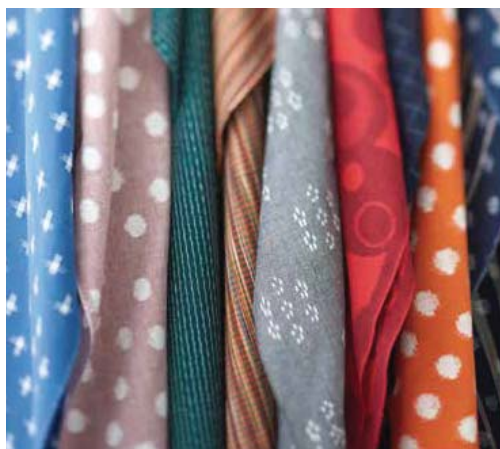
オカモト商店では、昭和55年に久留米絣製品の製造と販売を開始。翌年、久留米絣のブランド化と、新しい顧客層の開拓を目指し、「儀右工門」ブランドを立ち上げました。「伝統を大切にしながら久留米絣の特長を活かし、現代に合った製品づくりを行っています」と野口社長。

業界をネットワーク化し 久留米絣の価値向上へ

また、オカモト商店は織元と協同で、井桁の

会を立ち上げました。製造者(織元)、卸業者、そして小売業者をネットワーク化し、画期的な染色方法の立案、市場性のあるデザインの考案などを推進し、久留米絣の価値向上に日々、取り組んでいます。

かつては卸売業として、主に業界の川中の部分を担っていましたが、今では独自の販路開拓戦略として、久留米絣製品の催事やイベントも手がけています。そこで得ているのが、インバウンド客や若者からの好反応。川下である消費者の声を、製造者である川上に届けることで顧客満足度をアップさせ、業界全体の発展を支えるのが当社の役割だと考えています。



品質に対する誇りの 「MADE IN KURUME」

「スニーカーの街久留米」を発信
 ゴム靴製造販売国内No.1、品質と履き心地にこだわってきた歴史を込めて、伝統のワールカナイズ製法を用いたスニーカーには「MADE IN KURUME」と刻印し、スニーカーの街久留米を世界へ発信しています。ムーンスターの靴づくりを代表するワールカナイズ製法は、生ゴムに硫黄を加え、熱反応によってソールとアッパーを接着させる方法

で、しなやかで丈夫な仕上がりで美しい風合いを実現できる、昔ながらの製法です。「スニーカーのデザイン、設計は変わりますが、品質と履き心地にこだわることは変わりません」と語るのは、大石総務課長。平成30年には、東京銀座に総合旗艦店「MOONSTAR Factory Ginza」をオープンし、世界に発信し続けます。

ムーンスターの「精品主義」

一つの靴が生み出されるまでには、蓄積された足型データをもとに企画し、デザイン、素材、身体機能、試作品の履き心地分析を徹底的に行い、各種検査機器による精査など、数々の基準をクリアしなければなりません。また、その過程で機械だけでなく多くの人の手が加わっています。明治6年の創業以来、時代に合わせたさまざまな素材や機能を開発しながら、「一足丁寧に仕事」を心がけてきました。

「私たちはこの姿勢を『精品主義』として、創業以来、絶対に妥協を許さないものづくり精神を貫いていまい」と語る大石総務課長のこのこだわりも「MADE IN KURUME」なのです。



靴と向かい続けて145年 ゴム靴製造・販売国内No.1

設立 大正6(1917)年
 資本金 13億円
 本社所在地 久留米市白山町60番地
 代表取締役 CEO 猪山 渡
 従業員数 881名
 事業内容 靴の製造販売(スニーカー、上履き、子ども靴、婦人靴、紳士靴、スポーツシューズ)

受賞歴等 平成25年「グッドデザイン賞」(ロングライフデザイン賞) / 平成28年「グッドデザイン賞」 / 平成29年「経済産業省「地域未来牽引企業」 / 平成30年「キッズデザイン賞」(11年連続受賞)

公式サイトはこちら!





久留米の伝統的工芸品 久留米絣の魅力在世の中に発信



設立 大正6(1917)年
 資本金 1,000万円
 本社所在地 久留米市中央町35-1
 代表取締役 西原 佳江
 従業員数 4名
 事業内容 久留米絣製品の製造・販売
 受賞歴 平成28年度経済産業省「The Wonder 500™」

公式サイトは
こちら!



若い世代につなぐ糸 伝統を

オーダーメイドで、若い男性にも人気
 素朴な風合いと、力強いながらも柔らかな肌になじむ久留米絣。そんな久留米絣を使った製品のデザイン、製造、販売を手掛ける株式会社西原糸店。5代目となる西原取締役の曾祖父が、大正6年に創業した、糸織維製品の卸売店をの始まり。平成29年に創業100年を迎えました。4代目の時に小売業に転換し、それまで扱っていた軍手やタオルから、伝統的工芸品の久留米絣商品を扱うようになったこと西原

取締役。
 現在、様々な絣生地の中から、オリジナルの日傘、ネクタイ、ハンカチ、お祝い袋などを製造、販売。お好みの生地で作る小物やワンピース、スーツのオーダーメイドも行っています。「スーツは若い男性向けの久留米絣製品が少なく、ここに着目してデザインしました。スーツに適した生地を選び、洗練されたデザインにする事で久留米絣のイメージを変えたいと思っています」。

産学官金連携による取り組み
 西原取締役の目標は久留米絣を若い人に伝え、世界に発信すること。製作した「かすりピアネスタイル」は、日本が誇るべきとされた地方産品を海外に広く伝えていく経済産業省「The Wonder 500™」にも認定されています。また、産学官金連携にも力を入れ、久留米大学とともにファッションショーを開催し、若い世代に伝統文化を広める活動も行っています。久留米絣を使って製品を作る例として、地元のためにできる限りのことに積極的に取り組む、久留米愛あふれる西原取締役。「糸はもろく、抜けないのに西原糸店の社名を愛えないのは、人と人が糸でつながる店にしたいの思いからです」と話してくれました。



額縁の製造、卸、販売 大手ECサイト13年連続売上No.1



「飾る」文化の創出に寄与

品質の高さでリピーター続出

創業以来、額縁の製造、卸、販売を行っていた有限会社ないとう。社会環境、生活様式の変化から近年、業績は伸び悩んでいました。そうした中、現在の内藤専務が入社、新しい売り方を模索し、平成16年に額縁のネット販売をスタート、ありそくてなかつたビジネス手法が受け、新たな需要を開拓しました。以降、大手ECサイトの小売部門で13年連続売り上げNo.1を達成中です。

客層は20代から70代までと幅広く、既製商品からオーダーメイド商品まで豊富なサイズを取り揃え、顧客のあらゆるニーズに応えます。また、自社工房併設により早期納品を実現しています。

ないとうの強みは額縁サイズの正確性、額縁に作品を入れた時、一般的な製品は誤差1mm以内ですが、同社の製品は誤差0.5mm以内と、より厳密なもので、飾ったときの見映えが格段に美しくなります。この高品質を維持するために、厳しい基準

で、「材料カット」組み立て、「完成後の3回、1つ1つ手作業で検品」を行っています。品質チェック、正確性に対する社員の意識の高さも売りです。これらが、高いリピート率につながっています。

技術とアイデアで新価値を

「額縁に付加価値を持たせる新商品の開発に力を入れた」と語るのは内藤社長。「お子様のファーストシューズ」お祝い時の「リサードフラワー」など、額縁に収める作品の幅を広げるアイデアが次々と挙がります。設備投資にも積極的に取り組む、額縁に彫刻ができるレーザー彫刻機や、アクリルボードに印刷できるUVプリンタの導入なども、顧客にさらなる価値を提供し、額縁の新たなサービスを創出していきます。

多種多様な額縁を製作



設立 平成10(1998)年
 資本金 300万円
 本社所在地 久留米市城島町江上本1209-2
 代表取締役 内藤 昌人
 従業員数 24名
 事業内容 額縁の製造、卸、販売

公式サイトは
こちら!





シール印刷、日本トップクラス
独自のビジネスモデルで強さを発揮



紙器加工製品

顧客の要望を叶える トータルパッケージ企業

印刷紙器加工で地位を築く
昭和43年 進物用木箱の製造からスタートした株式会社丸信。当初は食料品を中心とした包装資材を取り扱っていましたが、その後、スーパーマーケット等での食品トレイも手掛けることになり、そこで、パルコートシールや備引きシールなど、シール印刷の需要があることを見いだし、平成に入り、食品ラベルや包装を中心とした化粧箱とシール印刷が業務の柱となりました。

顧客と社員の満足度向上を自指す
また、顧客商品の販売促進に役立つため、丸信の強みは、包装から販売促進まで、パッケージに関する全ての業務を自社で一貫して行えること。顧客ニーズをダイレクトかつスピーディーに商品開発へ反映させるため、社内デザイナー部門も設置。現在20名以上のデザイナーが所属しています。このことで、より消費者に訴求力のある包装やシール印刷のデザインを顧客に提案できるようになりました。

設立 昭和43(1968)年
資本金 4,500万円
本社所在地 久留米市山川市ノ上町7-20
代表取締役 平木 洋二
従業員数 430名
事業内容 食品・文具等の包装、デザイン、印刷加工等
受賞歴等 平成28年「第26回シールラベルコンテスト」(経済産業大臣賞)／平成29年「第27回シールラベルコンテスト」(日本印刷産業連合会会長賞)／平成30年「第29回 世界ラベルコンテスト」(最優秀賞)(審査員特別賞)

公式サイトはこちら!



印刷紙器加工で地位を築く

ラップの芯から容器包装まで
昭和47年設立の株式会社丸栄紙管は、紙管・紙容器の製造販売会社です。創業当初は、主に松材を利用した木綿や薄板、折り箱などの包装材を製造。後に紙管の製造が主要事業となりました。「紙管とは紙を巻いて筒状にした管のこと。トレットペーパーの芯や家庭用ラップの芯一般紙管のほか、食品、菓子、酒化化粧品等の容器(紙管容器)としても使用されます。商圏は九州

「ハイブリッド紙管」の開発
紙管容器の需要が急増し、自社の生産体制では注文を捌ききれなくなったため、協力会社をのみにらず関東、関西まで広がります。近年は容器に3つあるメーカーが増え、贈答用やイベント企画物の紙管容器の需要が急増しています。平成25年にはJR九州一なつ星で販売された高級焼酎の容器も手掛けしました。今後力を入れていく分野になると社社長。

長年のノウハウで 消費者ニーズに応じた紙製品を

のみにらず関東、関西まで広がります。

探すことになりました。しかしながら紙管製造には特殊な技術が必要です。そこで同社は、平成30年「ハイブリッド紙管を開発実用新案登録」します。これは強度の高い紙管と比較的簡易な平滑紙管を組み合わせて一つにしたもので、コア部分を同社が、筒部分を協力会社が製造します。強度はやや落ちますが、価格が安く、一部外注ができることで大量生産が可能となりました。

紙管、紙容器の例



九州でも数少ない
紙管・紙容器の製造・販売

設立 昭和47(1972)年
資本金 2,000万円
本社所在地 久留米市城島町栢津888番地 1
代表取締役 代表取締役社長 今村泰生
従業員数 47名
事業内容 紙管及び紙容器製造販売

公式サイトはこちら!



住宅用・浴室用グレーチング 全国トップシェア



樹脂グレーチング

| | |
|-------|--|
| 設立 | 昭和41(1966)年 |
| 資本金 | 2,000万円 |
| 本社所在地 | 久留米市中央町28番地7 |
| 代表者 | 代表取締役社長 島 信英 |
| 従業員数 | 33名 |
| 事業内容 | 住宅機器・建築部材・ユニバーサルデザイン商品 製造、販売 |
| 受賞歴等 | 平成29年「国際建築展示会ARCHIDEX2017」(NEW PRODUCT AWRAD受賞) |

公式サイトは
こちら!



木製グレーチング



高級グレーチングで海外の ラグジュアリー市場を狙う

シニアインバウンド、災害に対応

創業明治4年の株式会社シマブン。ルーツは久留米藩の瓦葺棟梁だった創業者が瓦製造・販売を始めたことに遡ります。その後、瓦の需要減少により建材店に転換。徐々に住宅資材の取り扱いが増え、昭和58年排水ユニット小川くんを開発。これを機に住水の水回り(浴槽、洗面台、トイレ)のグレーチング(排水溝の蓋)事業に特化。現在に至ります。特に医療福祉設備向けグレーチング市場での納入件数シェア28%。住宅在来工法浴室

シェア90%を占め、いずれも国内No.1のニッチトップ企業です。

当初、一般住宅がメインだった顧客は、シニア市場(老人ホーム、病院、バリアフリー住宅など)へ広がりました。最近ではインバウンド増加によるホテル建設増を受けて、ホテル業界への商品供給も急増。福岡県工業技術センター、久留米リサーチパークなどの協力によって開発した、木製グレーチング(木製高級ホテルリゾートホテルに採用されています。今後注目しているのは、屋外用グレーチング。近年の豪雨

海外市場もターゲット

将来的な海外市場の開拓も視野に入れています。海外展示会にも積極的に出展。現地の高級ホテルリゾート、高級マンションなど、高所得者層向け市場の販路開拓にも確かな手応えを感じています。

「アンテナを高く張り、知恵を絞って、我々の商品が活かせる新たな市場を常に探しています。島家のDNAかたと島社長は笑って話します。瓦建築資材で始まった事業は、グレーチングに形を変えましたが、新しいものを探す姿勢は今も昔も変わりません。

プール用樹脂グレーチング



城島瓦の伝統製法を 受け継ぐ老舗瓦製造会社



| | |
|-------|----------------|
| 設立 | 大正2(1913)年 |
| 資本金 | — |
| 本社所在地 | 久留米市城島町楢津910-3 |
| 代表者 | 渋田 良一 |
| 従業員数 | 3名 |
| 事業内容 | 城島瓦の製造・販売 |

伝統継承と新たな挑戦

城島瓦400年の歴史を受け継ぐ

大正2年創業の歴史ある渋田瓦工場は、400年の歴史がある城島瓦の製造を行う会社です。城島瓦の歴史は、江戸時代まで遡ります。文献に聞ケ原の戦後、丹波の国より有馬公瓦工を伴って、筑後に封ぜられたより瓦業興る」と語られています。お城には大瓦が必要で、城島では質の良い粘土が豊富に取れたことからこの地で瓦の製造が始まったと言われます。以後、筑後

川を使った水運もあり、最盛期には九州一円に出荷されました。

住環境の変化もあり、現在、同社では傭用の瓦の他、床用瓦、外壁用瓦などを製造しています。

新旧の技術を見せる取り組み

渋田瓦工場では伝統を守りながらも、新たな取り組みを行っています。その一つが、いぶし瓦製法に活用した軽量加飾型瓦材の開発です。軽量かつ精密な寸法。そして最も重要な再現

性複雑なデザインの瓦材を何十枚も複写製作できます。この技術で作成した内装用瓦材は、平成31年春、運行開始予定の観覧車のキッチン壁面タイルや洗面台などに採用されています。家屋と違い動く列車では、車輪の震動に耐えられる形状や強度など多くの条件をクリアする高い技術力が求められます。

また、城島瓦の美しい光沢を活かすため、3Dプリンタを組み合わせたオブジェ、鉢や灯りと、花器などの独創的なデザイン瓦の製作も手がけています。瓦材の新しい魅力を引き出すことで、新たなニーズを生み出しています。

城島瓦の魅力を次世代に伝えることも熱心です。観光客や地元の子供たちを対象にした城島瓦の製作体験にも取り組んでいます。この地が誇りたい伝統を地域に還元したいという思いからです。

(※引用) 城島瓦協同組合ホームページより



鉄道映像のエキスパート
国内売り上げNo.1



最新技術と高品質映像で
数々の賞を受賞

始まりは廃止路線の鉄道映像
ビコム株式会社は、元TV局のカメラマンだった山下社長が創業した企業です。昭和60年代国鉄の民営化を控え全国各地で赤字ローカル線が廃止され始めた時「地元・九州の路線の記録を残しておかないと」という思いから撮影を始めましたと山下社長。昭和60年九州の鉄道映像を通販で販売すると、予想以上に人気があり、一定のファンがいることに気づいた山下社長は、その後本格的に鉄道

映像作品を作り始めました。現在では、鉄道ソフトの売り上げ全国ナンバーワンの地位を確立しています。また、販売網も自社で確立し、各種映像ソフトの制作から販売まで一貫して行っていることも強みです。

4Kはもろもろ、8K技術も導入

久留米が本拠地のため、首都圏と違い、高品質な作品を制作するための機材や技術を持つ外注先がありませんでした。そのため自社で機材を揃え、技術者を育成、このことが結果

的に、独自ノウハウの蓄積と他社との差別化につながりました。「シラクシリーズ」という、国内やハワイなどの風景を中心に撮影されたヒーリング系ソフトも制作、販売。高画質・高品質に特化した映像ソフトは、DEGブルーレイ大賞を6回受賞しています。国内で他に先駆けて導入した最新技術の4K HDR Ultra HDブルーレイソフト「宮古島はハリウッドなど国内外で数多くの賞を受賞しています。世界自然遺産 小笠原（ホニムブルーの海）（下部写真左下）Ultra HDブルーレイ作品「さくら、8Kを取り入れた映像ソフトも制作。同社の美しさとリアリティの追求は、とことまめと心を



設立 昭和58(1983)年
資本金 1,000万円
本社所在地 久留米市梅満町15-8
代表取締役 山下 豊
従業員数 25名
事業内容 鉄道関連映像ソフト、高画質高音質ヒーリングソフト(DVD、ブルーレイ等)ほか、映像、映画の制作・販売など
受賞歴等 平成21年「ギネス世界記録 認定」/「AIS第8回ルミエール・アワード」(ベストUHD賞[USA]) / 「ルミエール・ジャパン・アワード2016」(4K部門 グランプリ) / 「DEGジャパン・アワード」(ブルーレイ大賞(第2・4・5・7回 ベスト高画質賞 / 第3・9回 審査員特別賞)) / 「HiVi グランプリ2016」(企画特別賞) 他

公式サイトはこちら!



久留米絨バーチカルブラインド
伝統工芸品へのチャレンジ



久留米絨の特長を活かして
的を射る

モノ売りからソフト売りへ

昭和39年、久留米市に初代橋本幸次郎が創業して以来、橋本事務機株式会社は、事務機の専門店として地元久留米市を中心に、良公開をはじめ数多くの企業との信頼関係を築いてきました。同社は「仕事を通じて地域社会に貢献する」をスローガンに、新たな仕組みや価値を創造する独自性のある会社を目指しています。

久留米絨を使った新しい商開発

日頃より久留米絨のシャツを愛用する橋本社長。久留米シティプラザの建設計画が持ち上がった際、久留米らしいものを取り入れた商品を作りたという思いから、平成25年、久留米商工会議所や織元などと「久留米絨プロジェクト」を立ち上げました。移りしにくい染料や劇場空間になじむ色柄などを研究し、平成28年、久留米絨調の椅子をプラザの久留米座に納品しま

す。その企画、デザインが目をひき、久留米絨を使ったブラインドの製作を手掛けることに。開発にあたっては、反物からブラインド幅分を裁断すると柄柄が途中で切れてしまうという悩みが、そこで、織元と共同でブラインド幅にあつ、絨の美しさを活かしたデザインを考案するなど細かい配慮が行われました。採用した矢絨柄は、突き進めを射ることから縁起がいいと橋本社長。さらに特殊な防炎加工処理も施し「久留米絨バーチカルブラインド」が誕生。歴史ある伝統工芸品の良さを引き出したこれまでにない商品として注目されています。

施行例：久留米シティプラザ



施行例：上は久留米工業大学、下は久留米商工会議所



「トライク」を一から製造できる専門店

設立 平成20(2008)年
 資本金 300万円
 本社所在地 久留米市野伏間1-20-66
 代表者 皆川 明
 従業員数 2名
 事業内容 トライク(三輪オートバイ)の製造、販売

公式サイトは
こちら!



他にはないオリジナル性が強い

A&Mコレクションは三輪オートバイの製造、販売を行っている会社です。皆川代表は、幼い頃から車が好き。自分デザインした物を作り、一心で様々なカスタムカーの製作を手掛け、たどり着いたのがトライク製作だったそうです。

「トライクは世の中になく新しい乗り物を生み出す楽しみがあります」と語る皆川代表。同社では設計、デザイン、穿孔、旋盤、溶接などを一

ユーザーと一緒に

夢に乗り出す

自由と安全を両立した1台を

公道を走る乗り物であることから安全面は最も重要視するポイントです。国の審査基準をクリアから熱い支持を集めています。

自由と安全を両立した1台を

公道を走る乗り物であることから安全面は最も重要視するポイントです。国の審査基準をクリアから熱い支持を集めています。

買って行っています。皆川代表の手から生み出されるトライクはオリジナル性が高く、他にはない点物の作品です。特にこだわっているのがデザイン。ユーザーからは「お任せ」のオーダーも多く、期待に応えていくための新しい知識と技術の修得に心血を注いでいます。その姿勢が、ファンから熱い支持を集めています。

「もつくりは奥が深く、終わりがありません。忙しいけれど、好きなことをやっている充実感があります。将来の目標は、トライクだけでなく、ピックアップ(トラック)やけん引トレーラーも自社でデザイン、製作すること。事業の柱を3本にしたいです」と話していました。まだまだ皆川代表の挑戦は続きそうです。



幅広い分野に用途がある抜型

株式会社モリサキは昭和46年創業の抜型メーカーです。抜型とは、ベニヤや樹脂などのボードに刃物を埋め込んだ型のこと。紙や布、プラスチックなどを特定の形に切り抜くために使われます。

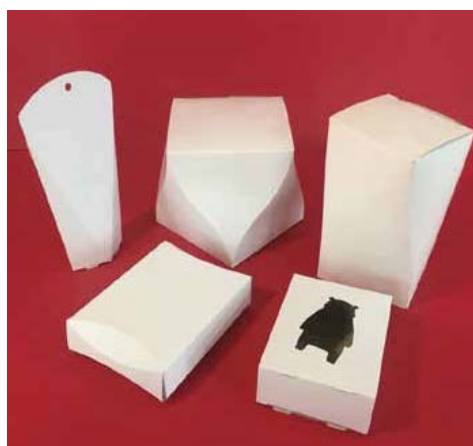
抜型は、お客様の生産現場で、材料を正確にカットし、かつ量産するために必要です。お酒類の化粧箱、様々なキープ箱、ディスプレイPOP

企画やカッティングにも対応

なにも使われるほか、自動車や精密機器に関するフェルトやガasket、弱電関連部材なども抜型を基につくられています。

紙器から精密機器まで、幅広い製品に使う抜型の製作を可能にするのは、最新のテクノロジーと、モリサキが誇る職人技。抜型の出荷数では九州No.1の実績です。

当初は、お客様からの仕様通りに抜型をつ



高いデザイン力と技術で 多様なニーズに応え続ける

くつていまして、化粧箱等のデザイン性が高まり、お客様から提案を求められる機会が増加。そこで、パッケージの企画・デザインから、抜型製作、カッティングサービスも行ようになりました。

企画やデザインにおいては、お客様の生産現場での組立工程やエンドユーザーまでも考慮して、お客様が思い描くイメージをデザイナーが具現化。多様な産業のニーズに応えてきた経験と、あらかじめ抜型を考慮してデザインできる強みを活かしたサービスを提供しています。

近年、その強みを活かし、いろいろなデザインに対応できる「Cut & Design」を立ち上げ、第一弾として、商業空間向け店舗什器を展開。洗練されたスタイルや組み立て式でサイズオーダーも可能なデザインが好評です。



「抜型」の出荷数九州No.1

設立 昭和62(1987)年
 資本金 1,000万円
 本社所在地 久留米市梅溝町1597-5
 代表取締役社長 森崎 准一
 従業員数 50名
 事業内容 各種抜型製造・カッティングサービス・パッケージ企画デザイン・関連資材販売・カット&デザイン

公式サイトは
こちら!



「ベリカバー」を考案 ホテルアメニティグッズ全国トップシェア

設立 昭和48(1973)年
資本金 6,500万円
本社所在地 久留米市津福本町2320-16
代表取締役社長 國分 信徳
従業員数 47名
事業内容 ベリカバー、各種産業用カバー、ショッピングバッグ、ホテル用アメニティグッズの製造・販売

公式サイトはこちら!



「包む」から心を癒す未来へ

超ロングセラーの「ベリカバー」

VC工業株式会社は、昭和37年、創業者である廣瀬幸正氏によるベリカバーの考案から始まりました。ベリカバーとは、井ぶりなどを出前する際、汁がこぼれないように被せるポリエチレンにゴムが付いたカバーのこと。戦時中は特攻隊員だった廣瀬氏。戦後、留米で醤油屋を営んでいた時に、ラーメン店の出前配達で汁がこぼれることに着目し、ベリカバーとその

製造機械を開発したのです。当時、出前の片手運転が、道路交通法で取り締まられるという時代背景もあり、飲食店を中心に全国に広まりました。創業以来の超ロングセラー商品ですと國分社長。ベリカバーの名は、「便利カバー」からの造語で、社名のVCもそこからつけられました。

ホテルアメニティも主力事業に

時代の変化にともない、飲食店向けのベリカバーの他、産業用カバー、機械カバー、理美容室

の耳カバーなどに用途が広がっています。

現在はホテルのアメニティやショッピングバッグ、エコバッグ(不織布)、ポリバッグなどの製造販売も主力事業となりました。ホテル用のシャワーキャップやミニなどを中野の子会社で製造しているほか、各種商品のアセンブリも行い、得意な物流を活かし、短納期でお届けしています。主な販路は、タイホテルビジネスホテル旅館などで、近年インバウンドの増加により出荷数も年々伸びています。また、ITシステムをいち早く導入し、品質生産物流管理を徹底、全国のお客様の声に基づき正確かつ迅速に対応していることも強みです。

「今後は、ベリカバー発明の原点に立ち返り、新たな商品開発にも力を入れたいと思っています。社名のVCの意味が「Value Creation」となることを目指します。」



chapter2

久留米のものづくり情報



久留米 輝くものづくり企業事例集

積み重ねてきた知恵と技